

高松市中央卸売市場のしくみとはたらき

中央卸売市場は、私たちが毎日食べるやさしい、くだもの、魚などの生鮮食料品をはじめ、お花などを適正な値段でおろし売りするところです。

この市場は、高松市がつくったもので、①品物を集める ②値段を決める ③たくさんのいろいろな品物が必要なところへ分けるはたらきをしています。市場は、取りあつかうものの多くが「なまもの」だけに、衛生に気をつけた設備をととのえています。

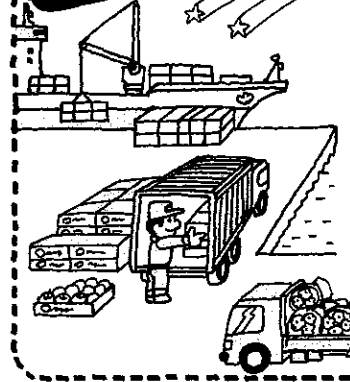
高松市に中央卸売市場がつけられたのは、昭和42年のことで、全国では25番目です。

魚や花は手のサインでぎめます。

たとえば、7です。



市場の一日



2. 高松市の中央卸売市場の一日は、ま夜中に始まります。全国かく地からのやさしくくだもの、魚・花のほとんどがコンテナトラックで、そして、香川県内のもも漁船やトラックで、夜から朝早くにかけて、たくさん運びこまれます。トラックだけでも一日500台ぐらいきます。

3. そして、運びこまれた品物は、品目ごとや種類ごとにきれいにならべます。

4. 買う人たちは、その日の品物の量や質の下調べをして、どの品物をどれだけ、いくらで仕入れるかを見きわめます。

5. 仲卸業者(売り手)と売買参加者(買い手)が、なぜいくばくは、いくらに書きます。

6. 値段はセリによって決まります

毎朝、5時30分から10時ごろまで、いせいのよい「セリ声」が市場内にこだまして、卸売業者と買手(仲卸業者・売買参加者)との間でセリが始まります。

そして、いちばん高い値段をつけた買手に品物が売られます。セリは、やさしくくだもの売るところは小さい黒板をつかき、魚や花を売るところは、手のサインを送って値段をつけていきます。

7. 市場は生産者と消費者をむすぶパイプ役

このように市場は、生産者(品物をつくる人)と消費者(品物を買う私たち)をむすぶ、大切な役わりをもっています。

8. このように値段が決められたたくさんの品物は、仲卸業者や売買参加者の人たちによって、病院、飲食店、スーパーマーケットなどへ、また、近くの魚屋さん、やお屋さん、くだもの屋さん、花屋さんの店先へ運ばれていきます。そして、そのお店へ私たちが買いものに行くわけです。

